

みなさま7かの七五三のしゅくふくがおわって、きょうの14日もありますので、ぜひきてくださいね。

「そのとき、イエスはでしたしにいわれた。」「それらのひは、このようなくなんののち、たいようがくらくなり、つきはひかりをはなさず、ほしはそらからおち、てんたいはゆりうごかされる。そのとき、ひとのこがおおいなるちからとえいこうをおびてくもにのつてくるのを、ひとびとはみる。そのとき、ひとのこはてんしたちをつかわし、ちのはてからてんのはてまでかれによってえらばれたひとたちをしようからよびあつめる。いちじくのきからおしえをまなびなさい。えだがやわらかくなり、はがのびると、なつがちかづいたことがわかる。それとおなじように、あなたがたは、これらのことがおきるのをみたら、ひとのこがとぐちにちかづいてるとさとりなさい。はっきりいっておく。これらのことがみなおきるまでは、このじ代いはけっしてほろびない。てんちがほろびるが、わたしのことばはけっしてほろびない。そのひ、そのとき、だれもしらない。てんしたちもしらない。

「てんのちちだけがごぞんじである。」

きょうのふくいんをよんで、リーダーがちいさいとき、すこしこわいいんしょうをもっていたとおもいました。いまになってかんがえたら、イエスさまはこのようなことをみんなをこわがらせるためにおっしゃっていなことがわかります。

イエスさまは、まず「しぜんをみなさい」と、ふゆになるときはがどんどんちっていく、しょくもつはかれ、むしやちいさいきものすがたをけします。しかし、はるになるとうえきがいきをふきかえし、あたらしいのちがうまれます。

イエスさまはじゅうじかにかかって、なくなりましたが、みっかめにふっかつされ、ちちであるかみさまのもとにおかえりになりました。イエスさまは、ごじぶんのことばにしたがうことによって、わたしたちがけっしてほろびることはない、あたらしいのちをいただくことができるとおしえてくださいました³¹。「てんちがほろびるが、わたしのことばはけっしてほろびない」よのおわりになにか、おそろしいことがおきることのようにおどかさひとがいます。しかしそれはおおまちがいです。わたしたちをイエスさまのもとにあつめ、いっしょにてんごくのよろこびにはいるのですから、それはかみさまのこどもであるわたしたちがもっともまちのそんでいるときです。

きょうかいで、わたしたちは「マラナタ」のうたをうたっています、それは「イエスさま、きてください」といういみで、ほんとうにイエスさまがきてほしい。すべてのくるしみ、ふあん、かなしみがイエスさまがきてくれたらぜんぶきえるからです。

わたしたちのことをイエスさまがだいじにおもってくださっていることをきょうのふくいんでは、つたえてくださっています。

「イエスさま、きてください」とおいのりしましょうね。

ぬりえ

